

看護局

救急外来

看護師長 上野 智美



救急外来ご紹介



救急外来の看護師スタッフ

りんくう総合医療センター救急外来は、救急外来と放射線科で構成されています。当院の救命救急センターが泉州地域の三次救急(重症患者)の最後の砦と言われていて、私たちが救急外来は一次、二次救急(軽症・中等症患者)の要であるとされており、地域の皆さんの最も身近な救急診療の場として機能しています。救急車の受け入れが年間約4,500台、歩いて来られる患者さんが約6,000人で、平均すると年間10,000人を超える患者さんが救急外来で治療を受けています。

私たち看護師は医師をはじめコメディカル(診療放射線技師・臨床工学技士・救急救命士・看護助手)と協働し24時間365日、対応に当たっています。地域の救急医療を支えるための当部署のあるべき姿として、①24時間緊急患者対応ができる体制であること②短時間でスムーズに検査・治療が提供でき患者ニーズに対応できることとし、救急外来チームと放射線科チームの2チームを編成し看護実践を行っています。

救急外来を受診する患者さんやご家族の不安は計り知れないことを忘れずに対応することを、私たちは心掛けています。病気のみならず、入院や今後の生活への不安を抱える方に対し、患者さん、家族の立場で、何が最善なのかを常に考え、患者さんに寄り添ったケアを提供することを優先しています。そのため救急外来では、特に接遇を大切に、朝礼で接遇マナーの基本原則(看護師8ヶ条)を皆で読み上げ、気持ちを新たに1日のスタートを切って看護実践に取り組んでいます。

救急外来では、昼夜を問わず、多くの患者さんからの受診前の電話問い合わせに対応しています。「トリアージ」という言葉を医療ドラマや映画などで一度は聞いたことがあるかもしれません。救急外来では重症患者さんを見逃さないために、専門的な訓練を受けた看護師が緊急性や重症度を判断して受診のご案内を行っています。緊急性が高いと判断した場合は、救急車ですぐに来院するようにお伝えし、そうでない場合は、翌日の外来受診をご案内する事もあります。また救急外来の特性上、来院順に診察するのではなく、重症度や緊急性に

応じて医師と看護師が判断し、緊急性の高い患者さんが優先的に診察と治療を受けることとなります。

来院される全ての患者さんにトリアージを行い患者さんの安全確保に努める一方、診察が終わった後の帰宅時の看護ケアにも力を入れています。例えば頭部外傷などでは、数時間後に症状の悪化が見られる事がありますが、どのような症状に注意すべきか、どのような症状が出たら連絡していただくかなど、細かい説明を心がけています。

放射線科では、CT、MRIはもとより、内視鏡検査、心臓血管カテーテル検査、脳血管造影検査や血管内手術など、高度な検査・治療を数多く行っています。ここで検査や治療は緊急性が高いものも多く、救急外来から直接カテーテル検査室へ搬送される事もあり、安全に検査・治療を提供できるよう、スタッフは迅速かつ安全な患者移動のための準備とトレーニングに、平素から取り組んでいます。

また昨年からは、心臓カテーテル治療を受ける患者さんへの前日訪問を実施しています。(2020年度実績:約100件)看護師スタッフが病室に訪問し、直接お話を聞かせて頂きながら、当日の検査手順、検査後の処置などを説明し、検査・治療の不安や緊張が少なくなる事ができるように取り組んでいます。

看護師8ヶ条

- 1 誰にでも気持ちよく挨拶し、笑顔で接します。
- 2 患者さんには言葉を丁寧に、心をこめて接します。
- 3 服装や髪型は常に清潔にします。
- 4 患者さん及び家族の説明は納得していただけるように十分に行います。
- 5 看護に責任を持つために名札をつけます。
- 6 患者さんのプライバシーを守ります。
- 7 仕事上の私語と大声での会話を慎みます。
- 8 電話では、まず私から名乗ります。



▲毎日の朝礼で看護師8ヶ条を復唱しています

